

案件名	平成29年度 第1回太宰府市立図書館協議会
主催者	太宰府市民図書館
日時	平成29年10月31日（火） 18:00～19:45
場所	プラム・カルコア太宰府 研修室1
出席者	協議会（穂坂委員長、八尋副委員長、白根委員、大空委員、野田委員、黒田委員） 図書館（田村館長、百田課長、今村係長、斉藤）

1. 開会あいさつ（田村館長）
近年、読書離れで図書館の貸出が下降気味です。その中で、10月より中学校3校へ学校司書が配置されましたことは、明るい材料だと思います。学校図書館は、校長先生、教頭先生、司書教諭、学校司書で運営されますが、市民図書館も引き続き司書を巡回させ連携を強化していく所存です。子どもたちに読書習慣がつくことで、今後の市民図書館の利用が増えていくのではないかと考えています。
事務局：過半数以上が出席されており、図書館協議会規則第5条第2項により会は成立しています。
2. 会長あいさつ（穂坂会長）
本日は平成29年度第1回目の図書館協議会ということで、活発に議論していただきたいと思います。
3. 協議事項
(1)平成28年度の報告（館報）について
・市民1人当たりの貸出冊数は7.3冊で、全国的平均よりは高くなっていますが、当館のピークに比べると減っています。
・今回より移動図書館車のステーションで行っている、学童保育所や保育所の団体貸出の冊数も計上しています。移動図書館車は子どもたちと高齢者の利用が多くなっています。
それでも、小学校のステーションは他に比べると利用が多くなっています。
・学校支援については、小学校へは巡回と小学生読書リーダーの養成、中学校は昨年度は学校司書が配置されてなかったため、市民図書館の司書が週3日開館支援を行いました。
・昨年度は、開館30周年の行事を年間を通して行いました。
協議事項(1)に対しては、質問などありませんでした。
(2)平成29年度予算及び事業進捗状況について
・施設管理料が減っているのは、電算システムを1年再リースしたことで保守料が上がっていたのが、新システムになって下がったためです。ただし、賃借料は同じ理由で逆に高くなっています。
昨年度の予算申請の時点では電算システムが決まっていなかったため、決算の値は変わります。
・舞台操作委託料が減っているのは、今年度は中央公民館ホールの工事で「七夕まつり」をこちらで開催できなかったためです。
・備品購入費は、開館30年も過ぎていろいろな備品が壊れて買い直しが必要となっているため上がっています。
・資料費は昨年どおりですが、近隣の4市1町の中では一番少ない金額です。大野城市を除いて、どこも貸出が減っています。
穂坂委員長：大野城市の貸出が伸びているのはなぜですか。
→事務局：はっきりとは分からないのですが、大野城市は平成25年度に館内のリニューアルを行っています。また、館の立地条件がいいということもあると思います。
八尋副委員長：国分に住んでいる方も、行きやすいということで大野城市に行っています。
白根委員：筑紫野市の資料費が一番多いのはなぜですか。
→事務局：筑紫野市は人口が10万人以上で太宰府市より多いからでしょうか。
八尋副委員長：太宰府市の登録率が36.4%ですが、他館と比べるとどうなのでしょう。
→事務局：当館は利用カードの更新日から3年たつとデータも削除して実際に利用されている人数にしていますが、他館ではデータを落としてなかったりするので指標としては使えないと思います。

穂坂委員長:再登録のお誘いはしないのですか。
→事務局:毎年、更新のお願いの広報はしています。
(3)第2次太宰府市子ども読書活動推進計画について
前計画は平成24年4月から5年間の計画だったのですが、今年度5年間の振り返りをして平成30年4月に第2次計画を始めるといことで、現在動いています。
前計画でも図書館協議会において、点検・評価をしていただいていたと思います。今回、第2次計画の素案ができましたので、ご意見をいただきたいと思ひます。
「はじめに」では、国や県の動き、そして前計画の意図を引き継ぎながら第2次計画を進めて行くことを述べています。
第1章は、計画策定の背景を述べています。前計画の中で大きな成果が2つありまして、ひとつは小学校に学校司書が配置されたこと、中学校には配置できなかったのですが市民図書館から司書が学校支援に行くようになりました。小学校に学校司書が配置されたことにより環境整備も進み貸出しが増えています。もう一つの成果として、4か月児健診の時に絵本をプレゼントするブックスタート事業を平成24年8月から始められたことです。家庭の中に本があることで、大人が子どもと本を楽しむ環境づくりの一助になっていると思ひます。
第2章は、基本的な考えとして計画の位置づけ、対象、期間、計画の推進、目標、基本方針を述べています。この中で、計画の点検と評価について図書館協議会にご意見をうかがうことになっています。第2次計画の期間中には、ブックスタート事業を受けた子が小学校に上がり、学校司書ががいた学校図書館で育った小学生が中学生になるので成果が楽しみです。
施策体系図に方策を載せていますが、前計画は所管ごとの取組みで分けていたものを発達段階に依じてまとめなおしています。
第3章は、推進のための方策を具体的に示し、どこが所管するかを示しています。
最後に資料編として、この計画の大本である『子ども読書活動の推進に関する法律』と策定の経過、委員の名前、そして一般の方向けに用語解説を載せる予定です。
後で現場の写真も入れて見やすいようにレイアウトする予定です。
黒田委員:ヤングアダルトという言葉は分かりづらくありませんか。
八尋副委員長:青少年向けがその対象のようですが。
→事務局:図書館ではずいぶん前からヤングアダルトコーナーを設けているので、利用されている方にはわかると思うのですが、用語解説に載せませす。
八尋副委員長:取組み24番は、文化学習課・市民図書館だけしか上がっていませんが、学校教育課はかかわらないのですか。
→事務局:学校図書館はまずは学習支援を行うところで、市民図書館は読書を楽しむことをすすめていますので切り分けてみました。
八尋副委員長:でも、学校でも「うちどく」等読書の楽しみもすすめているのではないですか。
→事務局:「うちどく」は協働の項目に入りますし、市民図書館で絵本から読み物へのコーナーやリストを作っていて、前計画には点検項目として上がってなかったので項目を作りました。
野田委員:「保護者に向けた啓発を推進します」などと書かれていますが、いつどんなふうにしていくのか読み手としては知りたいと思ひました。
→事務局:具体的な事業名を計画に入れていると、機構改革で所管が変わったり、事業名自体が変わることもあるので、数字も含めて年度ごとの実施状況の中で示す予定です。
野田委員:「学習指導要領に沿って読書の量を増やすとともに」という文言があるのですが、どういう繋がりがあるか教えていただいていたいいですか。
→事務局:ここは学校教育課に書いていただいたのですが、学習指導要領の改定の時に入ったのではなかったでしょうか。確認をします。
八尋副委員長:取組み14が発表機会の充実となっていて、読書感想文コンクールが上がっていますが、私はアニメーションやビブリオバトル等かと思ひていたのですが。
読書感想文の推奨は読書嫌いにさせませんか。
黒田委員:POPとかがいいのではないですか。
野田委員:友達から「これ面白かったよ」とすすめてもらう方が、子どもたちは本を読むと思ひます。
→事務局:例えに上がっているのが読書感想文だけだと硬いのかもかもしれません。別のものを上げられ

